



続く人口減少への対策は

安部 誠也 議員



志々支所の窓口業務

Q 合併の評価と今後のまちづくりは

来年1月で合併20年を迎える。近隣自治体から排除された中で、唯一の選択が人口1万人未満の小さな合併だった。当時の政府は「飴と鞭」で財政面での圧力をかけてきた。

この20年を町長はどう評価しているのか。飴である合併特例債はこれまでいくらか使われ、残りは何に使うのか。

庁舎をはじめ、拠点への集会所施設等はほぼ計画どおりに完成したが、人口減少には歯止めがかからない。その要因を分析した結果を伺う。

また、雇用創出、新たな産業創造での若者の定住を図るべきと考えるがどうか。

民間の有識者会議が4月に発表した「消滅可能性自治体」には該当しなかったが、飯南町をどのように維持していくのか。

A 定住を重視、危機感はある

町長塚原隆昭

小さな町からの生命地域宣言を基本理念に掲げて

①人材や地域支援など、まちづくりの要素が広がり、まちの魅力が厚みを増した。

②多かつた職員数は業務や組織の見直し等を行い行政組織がスリム化された。

③合併当時は分庁舎方式をとっていたが、新庁舎建設で管理経費の削減が図られ、効率的な行政運営になった。

④合併特例債の手厚い財政措置を活用して、住民ニーズに沿った施設、道路整備を進めることができた。

一番のメリットは、小さな2町の合併で、地域のつながりを重視して、合併時の支所機能の維持ができ、きめ細かなサービスを提供することができた。

合併特例債は本庁舎建設事業をはじめ55事業に活用し、令和5年度までの発行額は35億5000万円余で残

り約9億円だ。

重要な課題である定住についてはしっかりと受け止めている。

最近の3年間は社会減が続いており、自然動態においても、高齢者の死亡、出生者数の減により、人口が減少し続けている。子育て世代の減少等により、出生数が減少していることが要因として大きいのではないかと考える。

本町は消滅可能性自治体には分類されていないが、実感として人口に対し、大変危機感を感じている。子育て世代の数を増加、維持に力を入れている。就労の場の確保、就労環境のさらなる整備も必要だ。

その他、道路橋梁の老朽化対策について質問があった。

一般 質問

令和6年 9月定例会

観光宿泊施設の今後は

内藤 眞一 議員



Q どうする観光宿泊施設

本町には「やまなみ」「琴引ビレッジ山荘（以下山荘）」「憩いの郷衣掛（以下衣掛）」の観光宿泊施設が3つあるが、いずれも老朽化しており、町は在り方を検討している。

現状を整理すると

① 宿泊

「やまなみ」は営業中止。「山荘」は各部屋にトイレと洗面等がないため、冬季以外の利用は限定的。「衣掛」はビジネス客中心でユニットバス付きシングルが多く利用されている。

④ 会議

「やまなみ」と「衣掛」は利用はあるが、減少傾向。「山荘」は受け入れていない。

このような状況だが、頓原と赤来に一つずつレストランと宴会場を兼ね備えた施設は今後も必要ではないか。

町の中央付近で交通の便も考慮した宿泊施設も一つ必要だ。町長の考えを伺う。



憩いの郷衣掛

② レストラン

「やまなみ」は町内外の客が昼食に利用し、採算も取れている。「山荘」はスキーシーズン以外の効率が悪い。「衣掛」は昼食・夕食ともに日常的に地域住民や来町者が利用し、採算性も良い。

③ 宴会

「やまなみ」と「衣掛」は20〜30人の宴会と法事等もあるが、減少傾向。「山荘」は現在受け入れていない。

A 広く声聞き方針を固める

町長塚原隆昭

令和5年度に「観光宿泊交流施設の今後の在り方」を検討した。

宿泊は一カ所に集約、食事は頓原と赤来に一つずつとする。

具体的に説明すると、「やまなみ」は道の駅として昼間のレストランを存続。宿泊と宴会を廃止し、2階の空きスペースを子育て世代の憩いの場として整備する。「衣掛」



やまなみ



琴引ビレッジ山荘

は、昼夕のレストランと20〜30人規模の宴会場を整備。客室はレンタルオフィスとして活用する。「山荘」は、老朽化が著しく、解体して周辺に宿泊・レストラン・宴会場を持つ新施設の建設を検討する。

議会からは、空きスペース整備の必要性の是非や宿泊施設の候補地検討などの意見をいただいている。

今後は、住民説明会の開催、利用者アンケートなど、広く声を聞き有益な施設再編となるよう方針を固めていきたい。